

南島で発見されたオガサワラオオコウモリの捕食死体

千葉 夕佳（小笠原村在住）

要 約

2015年1月に、小笠原諸島父島列島南島で、オガサワラオオコウモリ *Pteropus pselaphon* の新鮮な死体を発見した。本例は、オガサワラオオコウモリの南島での初認である。死体は、オガサワラオオコウモリが猛禽類によって捕食された痕跡と考えられた。2種の捕食者候補、小笠原固有猛禽類オガサワラノスリ *Buteo buteo toyoshimai*、冬鳥ハヤブサ *Falco peregrinus* のうち、ハヤブサが捕食者であった可能性が高い。

I. はじめに

小笠原諸島固有種であるオガサワラオオコウモリ（以降オオコウモリ）は、父島列島内では父島のみに集団ねぐらを持つ。隣接する島々にも採餌に渡るが（海洋島オオコウモリ生態研究会, 2013）、父島から南西沖約1 kmにある南島では観察されたことがなかった（自然環境研究センター, 2013）。筆者は、2015年1月6日、南島の海鳥類の調査の際、猛禽類に捕食された様相を呈したオオコウモリの死体を発見したので、ここに報告する。

II. 発見時の状況

オオコウモリの死体は、2015年1月6日12時頃に、南島のドリーネ内側の南斜面中腹の芝上で見つかった（図1a、1b）。周辺は、平たい石灰岩が数段にわたってテラス状に張り出し、テラスの間隙や地下のトンネルにオナガミズナギドリ *Puffinus pacificus* が多数営巣している環境で、露岩と芝地と砂地がまだらになった地表がむき出しになっており、周辺には、オオコウモリが採食するような樹木はなかった。

オオコウモリの、切断された頭部、両翼、両下肢は、まとまって落ちており（図1b）、胴体は見つからなかった。露出した骨の表面は赤く、ハエ類とアリ類がたかっていた。頭部は、鼻先の皮膚を残して骨がむき出しになっており、下顎が失われていた（図2a）。両翼は、背中中の皮膚の一部でかろうじてつながっていたが、骨は上腕骨から先だけ残され、肉が完全に削ぎ取られていた（図2b）。下肢は、左右とも中足骨より体に近い方は折り取られて失われ、残る先端部は肉が削ぎ取られていた（図2c）。

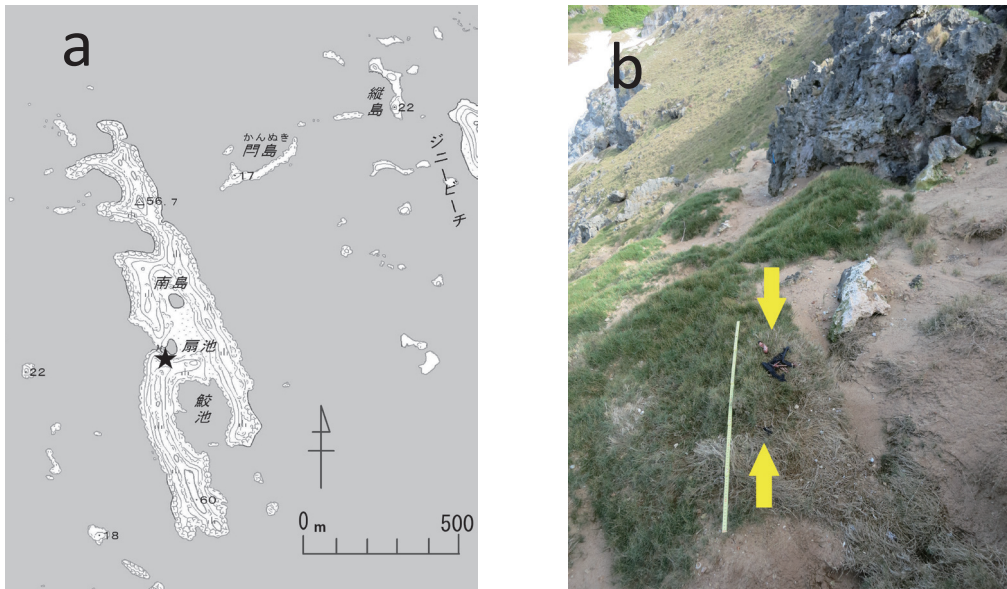


図 1 南島の地図とオガサワラオオコウモリの捕食痕発見位置 (a: 星印) と発見場所 (b: 黄色矢印に挟まれた部分)



図 2 オガサワラオオコウモリの捕食痕
a: 頭部; b: 両翼部と右脚; c: 左脚

Ⅲ. 考察

国の天然記念物にも指定されている南島は、各種調査により動植物の生息の有無が詳細に調べられているが（日本自然保護協会、2013; 自然環境研究センター、2013）、オオコウモリは観察されたことがなく、本観察は南島での初記録である。オオコウモリは、現在、ほぼ全ての個体が父島にめぐらをとると考えられているが、隣接する兄島でも、タコノキ *Pandanus boninensis* を訪れた記録がある（海洋島オオコウモリ生態研究会、2013）。南島と父島との最短距離は1 km 程度であり、タコノキも生育していることから、死亡していたオオコウモリは、南島へ採餌のために渡ったと推測される。

オオコウモリ死体は新鮮で、可食部が残っておらず、骨が折り取られていたことから、大型の捕食者に捕食されたと考えられる。小笠原諸島において、オオコウモリの捕食者として報告されているのは、外来種のノネコ *Felis silvestris*（稲葉、2003）だが、南島にはノネコが生息しない（日本自然保護協会、2013）。よって、本例は、南島に飛来する猛禽類による食痕と考えられ、猛禽類による捕食痕とノネコによる捕食痕を識別するための、貴重な資料である。

小笠原の在来種で唯一の高次捕食者であるオガサワラノスリは、採餌のために南島を利用することが知られ（千葉・千葉、2014）、本例の捕食者候補としてまず挙げられる。しかし、本調査時に近い2015年2月には父島でハヤブサが観察されており、このハヤブサが捕食者であった可能性もある。筆者は、ふたつの理由により、ハヤブサが捕食者であった可能性のほうが高いと考える。1) オガサワラノスリによるオガサワラオオコウモリ捕食は、両者が常に共存する父島でも、確認されたことがない。2) ハヤブサは飛翔中の鳥を襲い（森岡ら、1995）、夜間の採餌も知られている（Collins *et al.*, 2014; Dekker *et al.*, 1997）が、ノスリは通常飛翔中の動物を襲わず、夜間の採餌の報告はない（森岡ら、1995）。本食痕が発見された芝地周辺は、オオコウモリが採食する環境ではないことから、飛翔中に襲われた可能性が高く、襲われた時間帯は、オオコウモリが活動する夜間と考えられるため、ハヤブサが捕食者であった可能性が高いのではないか。

謝辞

東京都小笠原支庁土木課とNPO法人小笠原野生生物研究会のご担当者には、南島への渡島に際し、便宜を図っていただいた。NPO法人小笠原自然文化研究所鈴木直子氏には、オガサワラオオコウモリの文献についてご教示頂いた。千葉勇人氏には、原稿執筆の際にアドバイスを頂いた。深く感謝いたします。

文 献

- 千葉夕佳・千葉勇人 (2014) 殺鼠剤散布期間におけるオガサワラノスリによる小属島の利用. 小笠原研究年報 37: 67-79.
- Collins PM, Green JA, Dodd S, Shaw PJA & Halsey LG (2014) Predation of Black-legged Kittiwake Chicks *Rissa tridactyla* by a Peregrine Falcon *Falco peregrinus*: Insights from Time-lapse Cameras. *The Wilson Journal of Ornithology* 126: 158-161.
- Dekker D & Bogaert L (1997) Over-ocean hunting by Peregrine Falcons in British Columbia. *Journal of Raptor Research* 31(4): 381-383.
- 稲葉慎 (2003) オガサワラオオコウモリを次の世代に残す. 自然科学のとびら 9 (3): 18-19. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 海洋島オオコウモリ生態研究会 (2013) オガサワラオオコウモリの生息状況と海洋島生態系での役割の解明. プロ・ナトゥーラ・ファンド助成第 21 期助成成果報告書. 53-64.
- 自然環境研究センター (2013) 平成 24 年度小笠原群島母島及び離島の希少野生動植物生育状況等総合調査業務報告書. 環境省.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田孝・山形則男 (1995) 『図鑑日本のワシタカ類』文一総合出版. 631p.
- 日本自然保護協会 (2013) 南島自然環境モニタリング調査 過年度実施結果とりまとめ報告書. 東京都小笠原支庁.